

## 【外皮性能】 庇相当物の高低差と水平距離の根拠

文書管理番号：1303-01

### Q. 質問

庇相当物を設定した際の高低差と水平距離の根拠を知りたい。



部材設定一覧の開口部タブに表示される、「庇相当物高低差」「庇相当物水平距離」はどこからの距離を測定しているのか。

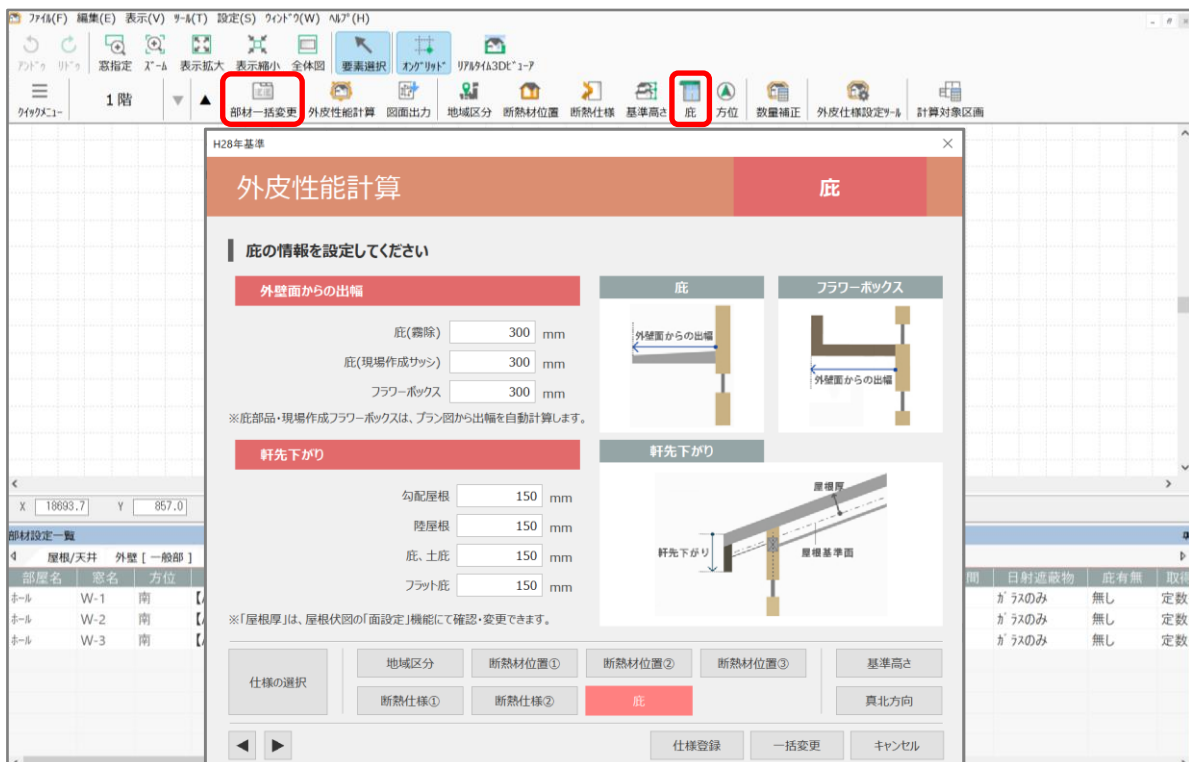
### A. 回答

庇相当物の高低差と水平距離は、開口部の取得日射熱補正係数の計算方法で、「簡易的に算出する方法」「日除けの効果係数と斜入射特性を用いる方法」を選択した場合に利用されます。

取得日射熱補正係数の計算方法については、こちらをご覧ください。

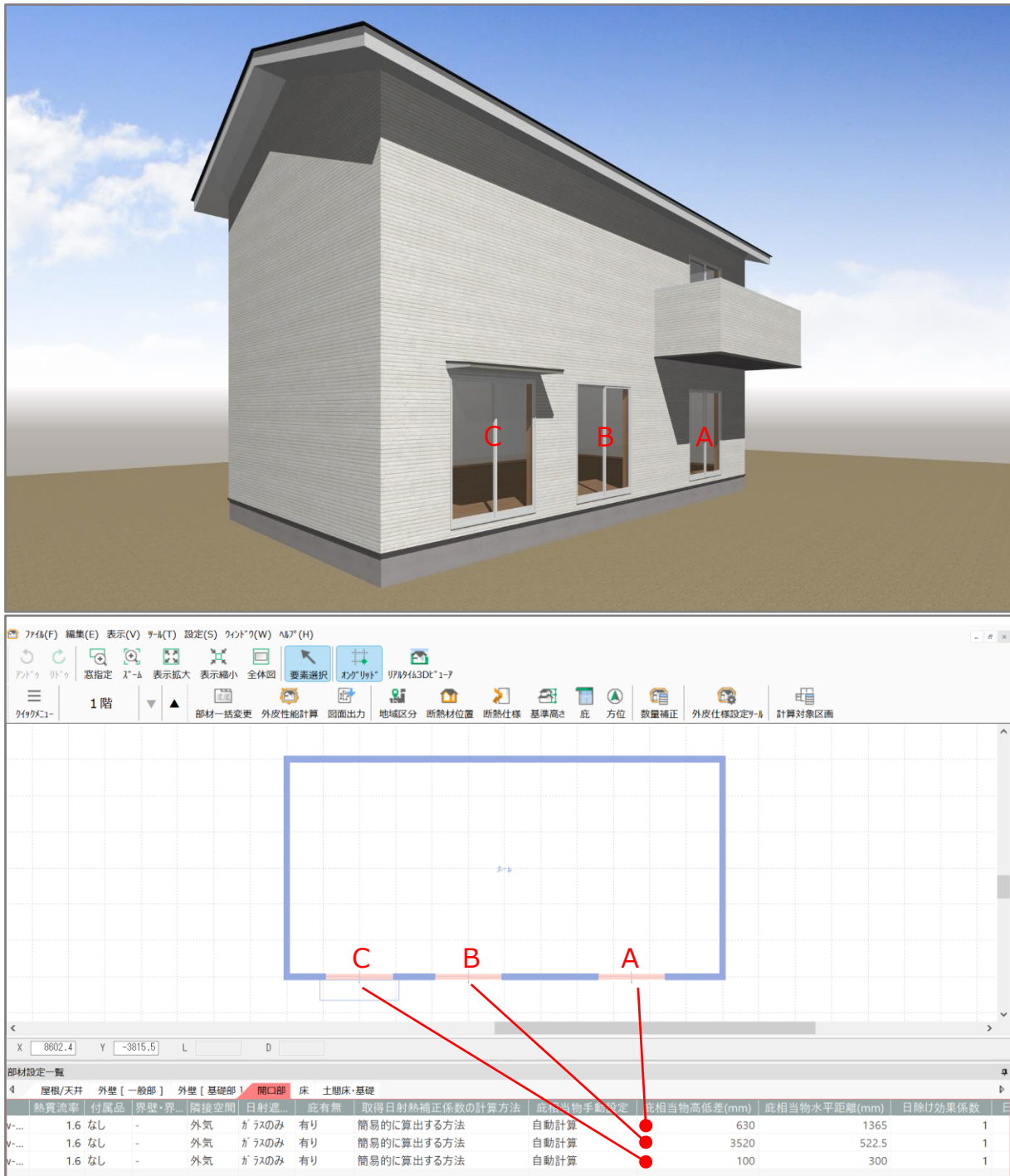
[\[1302\] 開口部の取得日射熱補正係数の計算方法](#)

庇相当物の高低差と水平距離は、 (部材一括変更)の「庇」で設定する「外壁面からの出幅」「軒先下がり」の設定内容が影響します。「庇」の設定内容は  (庇)からも設定が可能です。



\* 上図は「簡単モード」で動作した際の部材一括変更の画面です。

ここでは、図のようなケースについて説明します。

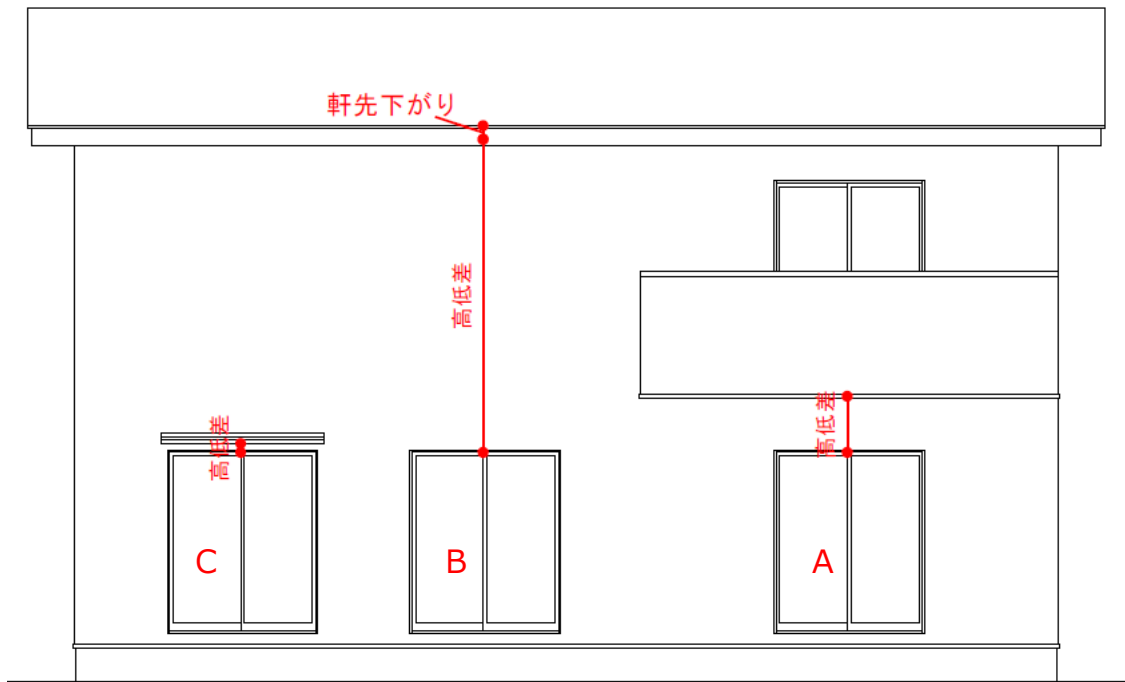


A : 庇相当物が (プラン図) で配置した (付属部品) の (バルコニー)

B : 庇相当物が (屋根伏図) で入力した (屋根面)

C : 庇相当物が (プラン図) で配置した (付属品) の (庇(現場作成勝手口))

## 庇相当物の高低差



開口部の内法上端から

A : バルコニー下端までの距離

B : 屋根上端から外皮性能計算の「庇の設定」で設定した「軒先下がり」を減算した位置までの距離

- \* 軒先下がりとは、 (屋根伏図) で (面作成) を行う際の面の種類ごとに設定が可能です。
- \* 軒先下がりとは、 (面設定) 時の屋根属性で「陸屋根」または、 (パラペット) を配置した際に「陸屋根」の設定を参照します。

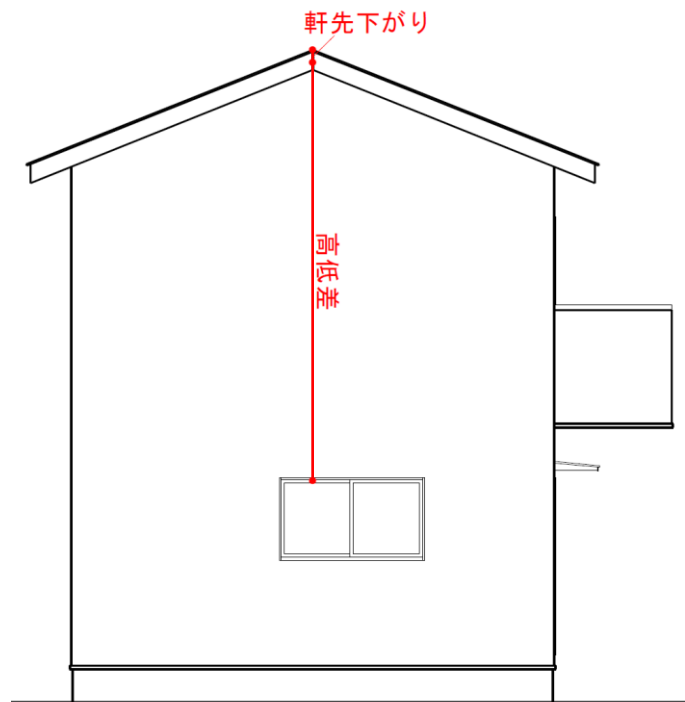
(パラペット) の場合、パラペットの立ち上がりの高さは考慮されません。



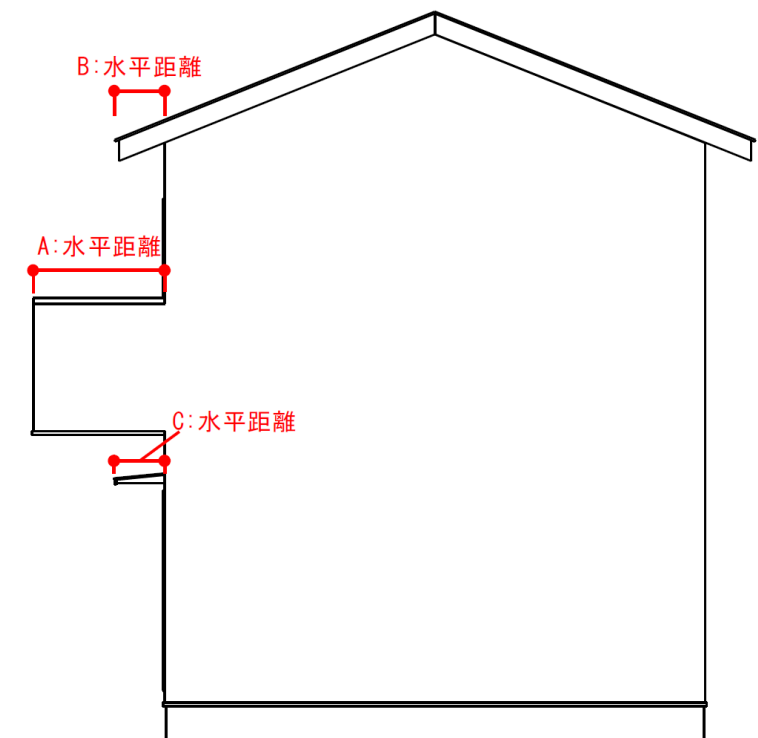
C : 庇部品の下端までの距離

【参考】 庇相当物が勾配の場合

妻壁側に配置した開口部など、開口部の上に勾配屋根がある場合は、勾配屋根までの距離が一番長い位置の高さを採用します。



庇相当物の水平距離



\* 庇相当物の水平距離は壁の厚みを考慮します。壁の厚みはプラン図の「1/50 平面図」で確認でき、プラン図の「設定」⇒「壁厚み設定」で変更できます。

A：外壁面からバルコニーの外表面までの距離

B：外壁面から屋根の軒先までの距離

C：外皮性能計算の「庇」で設定した「外壁面からの出幅」

### 【参考】

(付属品)の庇、フラワーボックスは、配置時の庇の出、フラワーボックスの出幅に関わらず、外皮性能計算の「庇」で設定した「外壁面からの出幅」で計算されます。

(屋根伏図)で配置した (庇)、 (土庇)は、入力時の出幅で計算されます。

\* (プラン図)の (付属品)の (外部廊下)や (バルコニー部品)も庇相当物として考慮されます。

### 【注意】 庇相当物が複数存在する場合

(付属品)の (庇(勝手口))の上に屋根がかかっている等、庇相当物となる部材が複数重なっている場合、採用される庇相当物が意図したものになっているか、部材設定一覧で確認し、異なる場合は手動で修正してください。

庇相当物手動設定を「手動設定」に切り替えると「庇相当物高低差」「庇相当物水平距離」の変更が可能です。